

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	14-326	慶應義塾大学
題名(原題/訳)		
Reduction of alcohol drinking in young adults by naltrexone: a double-blind, placebo-controlled randomized clinical trial of efficacy and safety. ナルトレキソンによる若年成人における飲酒の減量:有効性と安全性の二重盲式プラセボ無作為 対照臨床試験。		
執筆者		
O'Malley SS, Corbin WR, Leeman RF, DeMartini KS, Fucito LM, Ikomi J, Romano DM, Wu R, Toll BA, Sher KJ, Gueorguieva R, Kranzler HR.		
掲載誌		
J Clin Psychiatry. 2015 Feb;76(2):e207-13. doi: 10.4088/JCP.13m08934.		
キーワード		PMID
ナルトレキソン、若年飲酒、アルコール短期介入		25742208
要旨		
<p>目的:</p> <p>ナルトレキソン(オピオイド・アンタゴニスト)は、若年成人の間で飲酒の減少を促進する可能性がある。我々は大量飲酒する若年成人で飲酒を減らすために、毎日投与されるナルトレキソンの有効性と安全性をプラセボで比較した。</p> <p>方法:</p> <p>無作為二重盲検プラセボ対照試験は 2008 年 3 月-2012 年 1 月に外来患者研究センターで行われた。参加者は 18-25 歳であり、その前の 4 週間に 4 回の暴飲日を報告した。介入は、ナルトレキソンを毎日 25mg + 飲酒が予測される日(ほとんど毎日)に 25mg 追加 (n = 61) またはプラセボ (n = 67) とした。すべての参加者は、一週おきに、個人的フィードバック・セッションと短いカウンセリングを受けた。主要アウトカムは、8 週間の治療期間の間断酒した日のパーセント、暴飲日のパーセント日であった。第2のアウトカムは、飲んだ日の飲酒量、そして、推定された血中アルコール濃度 (BAC) が 0.08g/dL 以上の日のパーセンテージ日である。</p> <p>結果:</p> <p>140 例の患者のうち、128 は治療を開始した。そして、評価可能なサンプルとなった。治療の間、パーセント大量飲酒の日 (ナルトレキソン: 平均 21.60 (SD 16.05); プラセボ: 平均 22.90 (SD 13.20)) (P= .58)、そして、断酒ができたパーセント日 (ナルトレキソン: 平均 56.60 (SD 22.52); プラセボ: 平均 62.50 (SD 15.75)) (P= .39) は群によって異ならなかった。ナルトレキソンは、飲んだ日の飲酒量を有意に減らし (ナルトレキソン: 平均 4.90 (SD 2.28); プラセボ: 平均 5.90 (SD 2.51)) (P= .009)、推定された BAC 0.08g/dL で飲む日のパーセンテージ // (ナルトレキソン: 平均 35.4 (SD 28.40); プラセボ: 平均 45.7 (SD 26.80)) (P= .042) を減らした。重篤な有害事象はなかった。不眠は、ナルトレキソンでより普通にみられた。</p> <p>結論:</p> <p>ナルトレキソンは飲酒の回数または暴飲日の頻度を減らさなかったが、第2のアウトカムである飲酒の強度の計測を減らした。効果は大きくはないが、危険性と受益性割合は若年成人大酒のみが彼らが飲む量を低下させるのを援助するためにナルトレキソンを提供することを支持する。</p>		